



▲ スポーツ大会・女子の順送球

どなたにも待っている老後、どなたも避けて通ることはできません。あなたにも老後の設計がおりてでしょう。しかし、社会環境に最も左右される老人問題は行政面からのきめの細かいアプローチが必要です。県の行政の中でも最も力を入れている老人問題について、その背景や、老人福祉対策事業の内容を解説しました。

I 老人問題とその背景

昨年は、福祉元年と言われ、老人医療費の無料化、年金の大幅改善など、老人福祉の充実のため努力がなされましたが、いわゆる経済大国にしては、国民の福祉は、まだまだの感があります。経済の成長は、国民の生活を物心両面から豊かにするというものであったでしょうが、高度経済成長の結果は公害、物価高、過疎、過密等々各種のひずみをもたらしてきました。経済成長の恩恵に浴することが少なく、また物価高、石油危機モノ不足など急激な変化に順応しにくい老人層にとって、それらのひずみや社会の変容の影響は、大きく、所得保障、保健医療など、今後老人をめぐる問題はまことに深刻で、複雑です。

1 高齢化社会の到来

(1) 高齢人口の急増と人口の高齢化
日本の高齢人口は、昭和七十年までに倍増し、昭和八十年には国民の二割を越え、高齢化社会を迎えます。

しかも、日本の高齢化は、先進ヨーロッパ諸国の数倍の速さでやっています。

(2) 高齢化社会の到来に伴う諸問題
先ず第一に、高齢化社会の到来に極めて短期間に対応しなければならぬことです。

諸外国では、長い年月の間（六十歳以上）の人口割合が八から一八%になる期間（高齢化社会）に備えて、徐々に、個人、地域社会、企業、政府がそれぞれの

対応策を用意することができましたが、日本では、どの国も経験したことがない短期間（四十年）のうちに、これに対応しなければなりません。ちなみにフランス百七十七年、スウェーデン百三年、イギリス五十六年、ドイツ五十四年です。

第二に、国民負担の増大が急激に進みます。

十五歳から六十四歳までの生産年齢人口一人が受け持つ六十五歳以上の高齢人口の負担は、今後の三十年間に倍増することとなります。

第三に、「人生七十年」の時代を迎え、長い老後をどう過ごすかが問題となります。

日本は、今日平均寿命が男七十歳、女七十五歳を越え、世界的な長寿国となりつつありますが、この長い老後をどのように過ごすかは、個人の一生にとってはもちろんのこと、地域社会やひろく国民的課題であります。

2 生活環境の変化と老後の生活

高度経済成長がもたらした過疎、過密、公害、物価高などは、老人の生活に大きな影響を与えております。

(1) 老後の生活をめぐる問題

① 経済の発展に伴う影響
経済の発展は、急速な都市化と就業構造の変化をもたらす、その上に物価高と

《老人福祉特集》

あなたの老後のために！

老後の生活基盤の安定をゆさぶっております。

例えば、昭和十年における都市の人口及び面積は、それぞれ全国比三二・九%、一・三%に過ぎませんでした。昭和四十五年には、人口は七二%、面積は二八%を占め、急速に都市化しています。

就業構造についても、産業の近代化に伴って、サラリーマン化しており、若年人口を都市に集中させることとなっております。

又、経済成長は、物価高をもたらしました。昭和三十五年から昭和四十七年までの十二年間に物価は約二倍になりました。

② 核家族化と高年齢者世帯の増加
最近では都市化とともに一世帯の家族の構成員が、非常に小さくなり、いわゆる夫婦と子供を主としたものとなり核家族化しております。一方、それに伴って、高齢者の単身世帯又は高齢者だけの夫婦

世帯が急速に増加しております。

③ 扶養意識の減退

老人の六〇%の方々は、他からの経済的な援助なしでは、その生活ができない状態であり、老人の五五%の方々は、現に子や孫の扶養に頼って生活しております。

しかしながら、子や孫の扶養意識は、若年層になればなるほど低下する傾向にあり、又、老後の子供達との同居希望も、同様の傾向にあり、現実には子供達による扶養は減少しています。

④ 老後生活と年金

若年層になるに従い、子、孫による扶養の意識は、減少の傾向にある反面、老後の生活は年金でとの意見が、若い層ほど多くなります。

一方、日本の老齢年金制度は、制度としては、国際水準に達するとともに、その中身についても年々、その改善をみております。

⑤ 定年制と老人の就労

日本の企業の大多数は、定年制をとっていますし、その六〇%は、五十五歳定年制です。

しかし、「従来の「定年後は、悠々自適」というわけにはいかないのが現実であります。

定年に達した人々の大半が働くことを希望し、その八割の方々は、生計のためであります。

今後は、若年労働力の不足等社会的な理由、老後の生きがい等老人の個人的な

理由により、ますます老人の就労問題は、重要な問題であります。

(2) 老人の健康をめぐめる問題

老人の約四〇%の方々は健康状態がよくありません。

年をとると、身体の機能は低下し、病気に対する抵抗力も弱くなるので、老人が病気がちであることは当然のことですが、老人は青年の三〜四倍も病気に罹ります。

そのように、病気になるにもかかわらず、昭和四十四年の調査により、治療を受けていないのです。同調査で青年の状況をみると、病気になる者のほとんどが医療を受けており、そこには非常な相違がみられます。

又、老人の健康について意識調査をした結果により、自分は健康だと思っている人の三割は、実は健康でないといふことであって、意識と実際とは大きく相違がでております。

(3) 老後の生き方をめぐめる問題点

人生七十年の時代を迎え、長い老後をどう過ごすかについて、非常な関心もたれ、かつ、老人問題の一つの大きな問題となっております。

老後をどう過ごすかは、その人のおかれた環境、その人の考え方などによって、それぞれ異なり、ある人は趣味に生き、ある人は社会奉仕にと、いろいろあります。ところが、問題は、老人の過半数の

人々がどうして老後を過ごしたらよいか迷っていたり、わからないでいらつしやるといふ現実です。

(4) その他援助を要する老人の問題

その他、他の援助がなくては、生きていけない老人の人達がいらつしやいます。いわゆる「ねたがり老人」といわれる人達です。今県下に六千三百六人いらつしやいます。

寝たがり老人をかかえる世帯においては、単に老人自身の苦勞だけでなく、家族全体として物心両面にわたって大きな負担となっております。

又、一人で暮らしておられる老人が、県下に約一万百二十七人いらつしやっています。その三分の一の方は病気がちであって、何らかの援助を必要とされております。

老後の生活責任についての意識

	自己の責任	家庭の責任	社会の責任	不明
60歳以上	22.7%	49.6%	17.2%	10.5%
20歳台	44.1	15.8	32.4	7.7

<資料>総理府世論調査(41.5)

老後の同居希望

	50歳台	40歳台	30歳台	20歳台
	71.5%	66.1%	57.1%	50.2%

<資料>高年齢者実態調査

老後の生活に対する意見

総数	老後の生活に満足している	老後の生活に不満がある	その他	不明
総数	100.0	20.6	31.6	41.8
50~54歳	100.0	29.1	22.4	43.6
55~59	100.0	24.9	24.6	45.2
60~64	100.0	21.1	30.5	41.2
65~69	100.0	12.6	37.4	43.8
70~	100.0	11.8	46.7	39.8

<資料>46年国民生活実態調査(50歳以上の男)